

第 21 回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和 6 年 12 月 10 日

番号	6	質問者	加藤 貴之	タイトル	こどもへの投資は未来への投資	
質問事項		質問要旨				答弁を 求める者
1	学校における 個への対応と 効率化の両立	<p>(1) 学校のあり方について基本的な考え方を問う</p> <p>政府の「骨太の方針」（経済財政運営と改革の基本方針 2024）47 ページでは、「質の高い公教育の再生」として大きく 2 つの方向が示されている。それは、「個別最適・協働的な学び」「柔軟な教育課程の実現」といった話と、「働き方改革の更なる推進」「教師の時間外在校等時間の削減の徹底」といった話である。</p> <p>①朝来市の公教育において、この二つを両立することは可能なのか。教育長の見解を問う。</p> <p>②「質の高い公教育の再生」のためには、これまで以上に学校教育予算の充実が必要だと考える。市長の見解を問う。</p> <p>(2) 給食のバリアフリー化について</p> <p>咀嚼・嚥下障害のある児童生徒向けのミキサー・刻み食や、宗教上禁忌のある食材を除外した給食の提供のため、給食センターの調理員を増員すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(3) 学校徴収金の口座振替について</p> <p>①市内小中学校で児童生徒が学校徴収金を現金で持参している学校は何校あるか。</p> <p>②口座振替に移行する上でどのような課題があるのか。</p> <p>(4) さくら連絡網での連絡について</p> <p>①市内小中学校で、保護者から学校への欠席等連絡にさくら連絡網が使えない学校は何校あるか。</p> <p>②さくら連絡網への移行にどのような課題があるのか。</p>				市長 教育長

	<p>(5) 全国こども絵画選抜展について 朝来市の「全国こども絵画選抜展」は現在、学校・団体での選抜応募を要件としているが、教員が忙しいと応募が叶わず児童生徒にとって不公平である。個人単位でも応募できるよう要項を見直すべきと考えるがいかがか。</p>	
<p>2 地域で子どもを育てる仕組みづくり</p>	<p>政府の「骨太の方針」ではさらに、「全てのこども・若者の健やかな成長を社会全体で支えていく」とある。地域ぐるみでの教育・子育ては、その地域特性に合わせた取り組みが必要だと考える。</p> <p>(1) 市の「あさご・夢学びプラン」の副題は「地域が共に作りあげる教育の推進」である。教育長は、朝来市のどのような地域性を活かして、地域総ぐるみの教育を進めようと考えているのか。</p> <p>(2) コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的な取り組みは政府の「骨太の方針」でも市の「あさご・夢学びプラン」でも目標として示されているが、どのような将来像を描いているのか。教育長及び市長の見解を問う。</p> <p>(3) コミュニティスクールや地域学校協働活動では、イベントやふるさと教育などの「特色ある」活動をすることに重きが置かれているように感じる。一方で、登下校の付き添いや、授業についていけない子の補習など、日常的な支援が足りていない声を聞く。どのように考えるか。</p> <p>(4) 市の子ども・子育て支援計画には「子育て家庭を地域で支えるまちづくり」とある。市長は、朝来市のどのような地域性を活かして、地域ぐるみの子育てを進めようと考えているのか。</p> <p>(5) 在宅保育支援金について 現在、7ヶ月～2歳を対象としている在宅保育支援金について、すべての未就学児へ対象を拡大すべきと考えるがいかがか。</p>	<p>市長 教育長</p>

	<p>(6) 第3子保育料無償化について</p> <p>国の基準では子どもの数え方が独特で、実際には第3子であっても国の無償化制度を受けられない方がいる。国の制度に上乗せして、第3子以降のすべてのこどもについて保育料を無償化すべきと考えるがいかがか。</p>	
--	---	--